Panasonic

パナソニック ホームズ株式会社
〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号

2023 年 8 月 24 日

関東大震災から 100 年。『暮らしの防災対策に関する調査』を実施

「在宅避難」の意向が高い反面、自宅での生活継続に必要な対策不足が明らかに

～水の備蓄で、被災経験者が実際に最も困ったことは「飲料水」ではなく「生活用水」～

パナソニック ホームズ株式会社の「くらし研究室」は、このたび、関東大震災から 100 年を迎えるにあたり、住まいにおける防災の意識や対策について生活者に伺う『暮らしの防災対策に関する調査』を 2023 年 7 月に実施しました。

同調査では、約7割の人が、災害時に住宅が居住できる状況にあれば「在宅避難」したいという意向を持ち、「在宅避難」をするための防災対策を念頭においていることが分かりました。
建物が倒壊する危険がある場合や、生活の継続が困難な際は直ちに避難所に避難することが大前提ですが、一方で災害の規模や状況によっては、「在宅避難」を想定している自治体※1もあり、「在宅避難」という防災対策も1つの選択肢として捉えることができます。
また、被災内容として「断水」を想定する人のうち、約85%が実際に「飲料水」の備蓄をしていますが、「生活用水（トイレ・お風呂・洗濯用など）」との両方を備蓄できている人は約38%に留まりました。
被災経験者が実際に被災時に困ったのが、「飲料水」ではなく「生活用水」が最多という結果を鑑みると、「生活用水」の備蓄に注目すべきと言えます。

今回の調査では、災害時には「在宅避難」を想定している人が多いことが明らかとなり、災害時でも安心して自宅で過ごす対策が求められていることをあらためて確認できました。また、「飲料水」と並んで重要な「生活用水」の備蓄にまでは気が回っていない人が多いことや、家具の転倒防止などの安全対策までは実際にできていない人が多いことも分かりました。

当社は今回、あらためて被災時の住まいのあり方に思いを巡らし、「災害時に家が倒れない、被災しても自宅で最低限の生活を維持できる。“家”は重要な災害対策。」という提供価値を掲げ、『毎日と、万一の安心がつづく「大丈夫」と言える住まいを。』のメッセージを提唱しています。「くらし研究室」は、今後も、生活者の声に耳を傾けながら、誰もが取り組みやすく、かつ効果的な防災対策のあり方を追求してまいります。

■『暮らしの防災対策に関する調査』 結果サマリー

① 防災対策をする際に「在宅避難」する想定をしている人が約 7 割
- ✓ 防災対策の目的は「自宅で避難生活をするため」（67.3%）が最も多い結果に。
  次点の「避難所や知人・親類宅等に避難できるようにするため」（25.5%）と比較して 41.8pt の差。

② 一方で、自宅で生活を続けるために水の備蓄で十分な準備ができている人は約 4 割
- ✓ 例えば、「断水」を想定して「飲料水」の備蓄をしている人は 84.7%と比較的多いが、「生活用水」との両方を備蓄している人は 38.3%に留まる。

③ 被災経験者が、実際に「被災時に困った防災対策」は「生活用水の不足」が最多
- ✓ 実際の「被災時に困った防災対策」をお伺いしたところ、「生活用水の不足」（36.8%）の割合が最も高い結果に。「飲料水の不足」（22.4%）、「暑さや寒さなどの対策不足」（21.2%）が続く。

●本件に関するお問い合わせ先　パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部 TEL：06-6834-1955
●ホームページ　https://homes.panasonic.com/

■調査概要

調査対象	：	全国 20 歳～69 歳の男女
調査期間	：	2023 年 7 月 11 日（火）～7 月 13 日（木）＜3 日間＞
サンプル数	：	550 名
調査形態	：	Web アンケート調査（株式会社ジャストシステム「Fastask」を利用）
調査主体	：	パナソニック ホームズ株式会社

■当社の「くらし研究室」について

日々の家事の負担を軽くするには？もっと便利な収納とは？様々な側面から住まいと暮らしについて調査・研究を実施しています。世の中やライフスタイルの変化の兆しを読み取り、暮らしのアイディアをカタチにする活動を続け、より良い住まいの提案に繋げていきます。

「くらし研究室」ホームページ

https://homes.panasonic.com/kurashi-lab/

※1：東京都防災HP「地震発生時の行動から生活再建までのポイント」より
https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/bousai/1000026/1005642.html

◎『毎日と、万一の安心が続く大丈夫な住まいづくりを。』特設サイトはこちら
https://homes.panasonic.com/ad_lp/daijyoubu/

＊ 本件に関するお問合わせ先 ＊
パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部 広報課 井筒
TEL：080-8535-6640 ／ E-mail：izutsu.katsuhiko@panasonic-homes.com
HP： https://homes.panasonic.com/company/news/release/

60th ANNIVERSARY 感謝と挑戦

パナソニック ホームズは 2023 年に創業 60 周年を迎えます。これまでの「感謝」を新たな「挑戦」への力に変えて、暮らしを起点に事業活動を拡げます。
お客さま一人ひとりに寄り添い、心豊かな暮らしと持続可能な社会の実現を目指し、邁進してまいります。

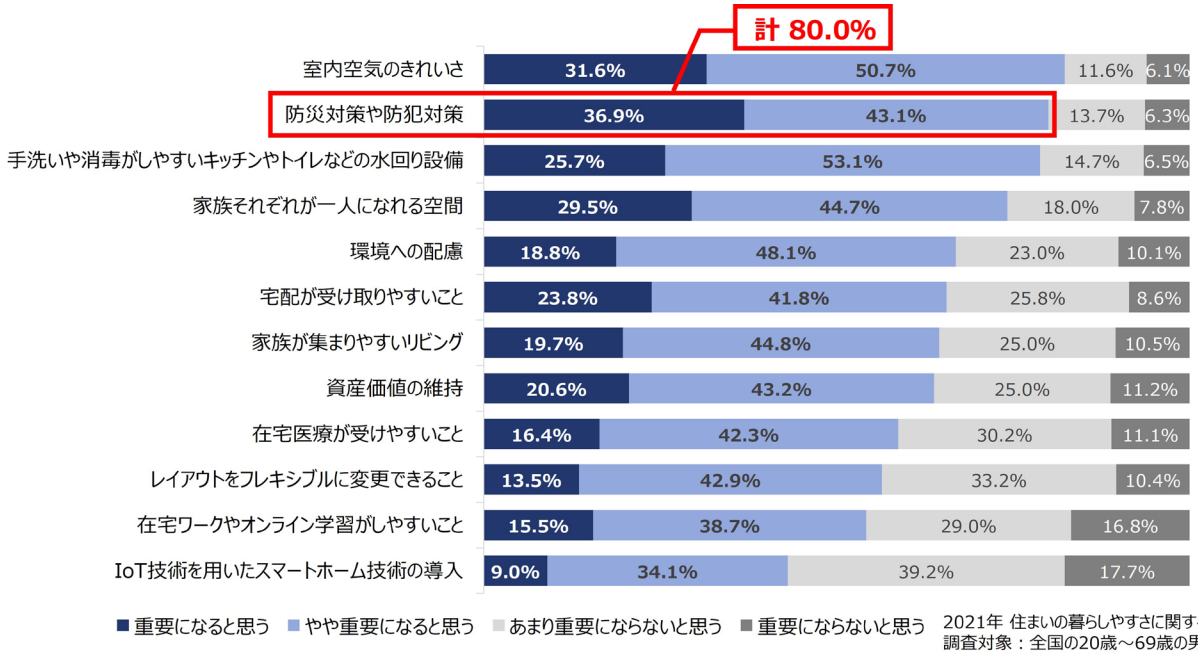
ご参考

■『暮らしの防災対策に関する調査』実施の背景

「くらし研究室」が、2023年5月に実施した『住まいの暮らしやすさに関する調査』で「これからの住居に対して重要になると思うこと」を伺ったところ、80%が「防災対策・防犯対策」が重要であると回答しました。（図1）

この『住まいの暮らしやすさに関する調査』の結果や、近年頻発する自然災害の発生状況を踏まえ、当社は、生活者の災害への対策意識はどのような傾向か、また、自宅における災害への備えや対応策に関する認識を明らかにするために、2023年7月に『暮らしの防災対策に関する調査』を実施しました。

図1　これからの住居に対して重要になると思うこと（複数回答）

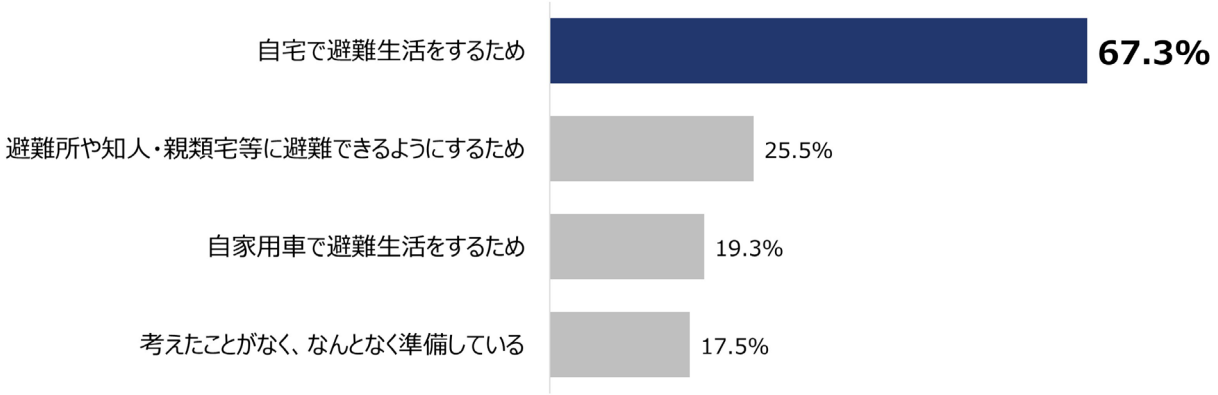


2021年 住まいの暮らしやすさに関する調査概要
調査対象：全国の20歳～69歳の男女
調査期間：2023年5月17日（水）～5月18日（木）
サンプル数：1000人（性年代均等割付）
調査方法：Webアンケート調査（ネオマーケティング）

■防災対策をする際は「在宅避難」を想定している人が約7割

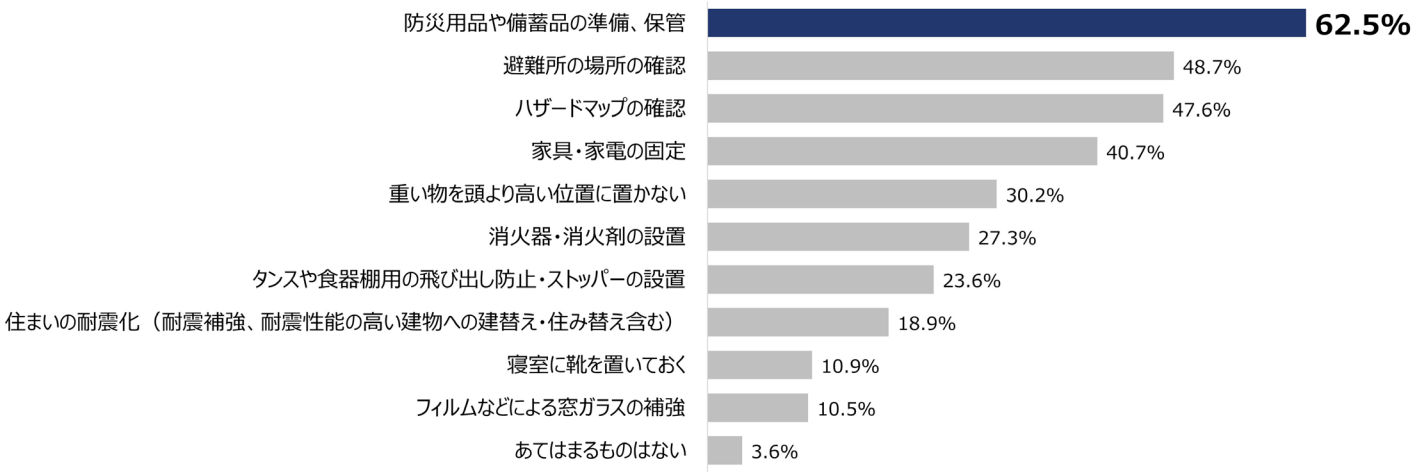
現在、防災対策をしている人に、対策の目的を伺ったところ「自宅で避難生活をするため」（67.3%）が最も多い結果となりました。（図2）

図2　現在ご家庭でおこなっている防災対策の目的（複数回答）n=275



防災対策として取り組んでいることは、「防災用品や備蓄品の準備、保管」（62.5%）が最多でした。（図 3）

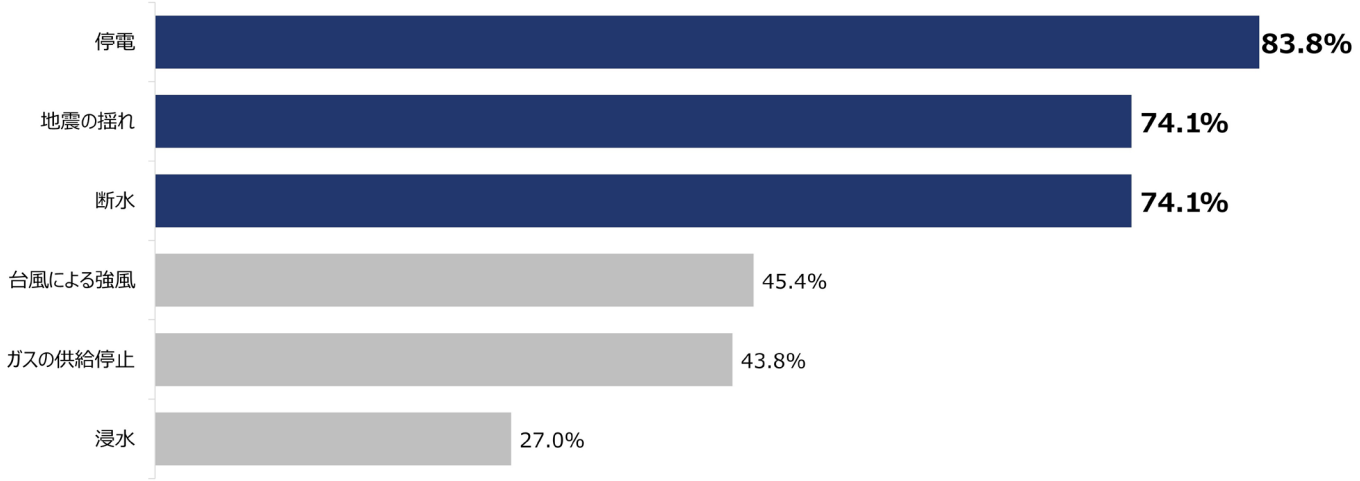
図 3 現在ご家庭で行っている防災対策（複数回答）n=275



■万が一災害が起きたとき、自宅で生活を続けるための水の備蓄で十分な準備ができている人は約 4 割

「在宅避難」の意向を持っている人が想定する災害の事象は、「停電」(83.8%)「地震の揺れ」(74.1%)「断水」(74.1%)が上位3つとなりました。(図 4)

図 4 想定している自然災害の事象(複数回答) n=185



・事象として「停電」を想定している人の備え

停電に対して、「あかり(懐中電灯・ランタンなど)」を準備している人は 90.1%に上りました。一方で、情報収集や家族との連絡に欠かせないスマートフォンの充電に必要な「モバイルバッテリー」を準備している人は 59.6%、エアコンが必要な時期の体調管理に関わる「暑さ・寒さ対策用品(カイロ・冷却シートなど)」を準備している人は 46.5%に留まることが分かりました。(図 5)

図 5 「停電」を想定している人の対策(複数回答) n=213

・事象として「地震の揺れ」を想定している人の備え

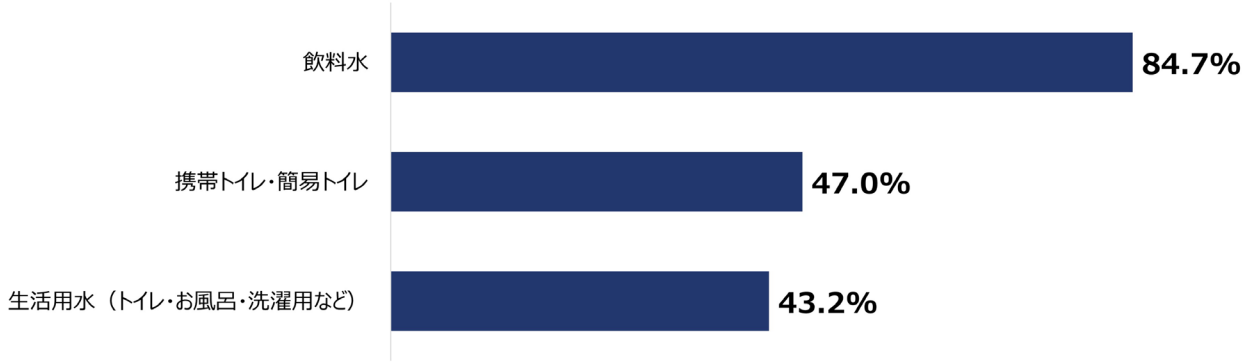
地震による揺れを想定して実際に対策として、「家具・家電の固定」（46.0%）、「重い物を頭より高い位置に置かない」（32.5%）、「タンスや食器棚用飛び出しの防止・ストッパーの設置」（27.0%）であり、家の中の安全対策を実際に準備できている人は半数以下に留まることが分かりました。（図 6）

図 6 「地震の揺れ」を想定している人の対策（複数回答） n=200

・事象として「断水」を想定している人の備え

「飲料水」を準備している人は 84.7%と、他の 2 つの対策に比べて比較的多いことが分かりました。（図 7）

図 7 「断水」を想定している人の対策（複数回答） n=183



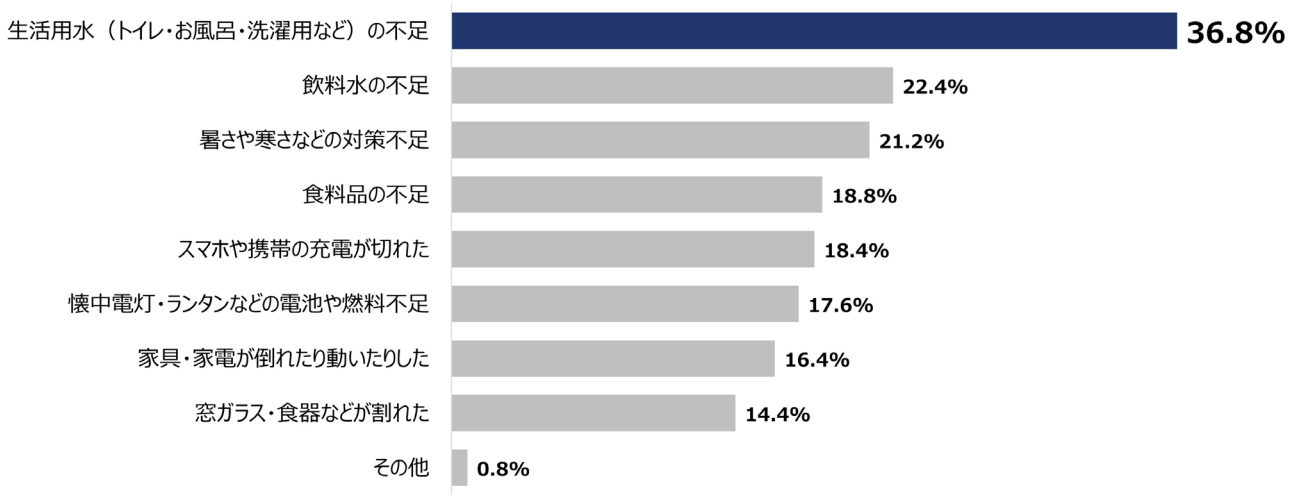
一方、「飲料水」と「生活用水」の備蓄状況については、両方を備蓄できている人は 38.3%に留まることが分かりました。（図 8）

図 8 「飲料水」と「生活用水」の備蓄状況（複数回答） n=183

■被災経験者が実際の「被災時に困った防災対策」は「生活用水の不足」が最多

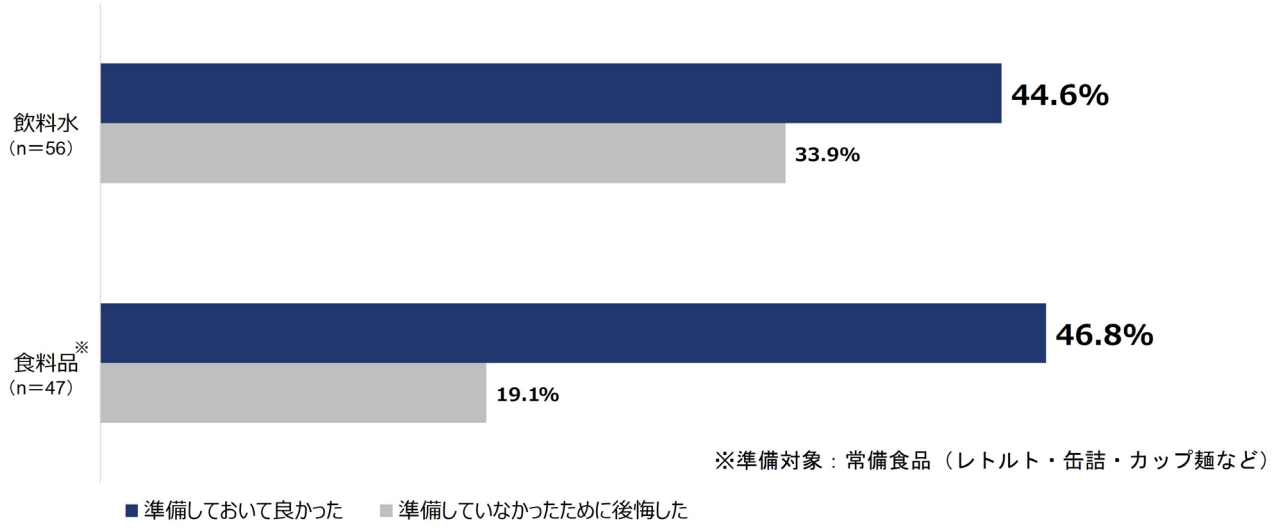
実際に、自然災害による停電・断水などで困った経験がある方に「被災時に困った防災対策」を伺ったところ、「生活用水の不足」(36.8%)が最も多いことが分かりました。
次いで「飲料水の不足」(22.4%)、「暑さや寒さなどの対策不足」(21.2%)、「食料品の不足」(18.8%)、「スマホや携帯の充電が切れた」(18.4%)が続きました。(図 9)

図 9 実際の被災時に困った防災対策(複数回答) n=250



また、被災時に困った備蓄品を「飲料水」や「食料品」を回答した人に、準備状況とその評価を伺ったところ、「準備しておいて良かった」が「準備していなかったために後悔した」を上回りました。準備していたけれども、量としては不足した人が一定数いることが分かりました。(図 10)

図 10 被災時に困った備蓄品に対する準備状況とその評価(複数回答)



■『暮らしの防災対策に関する調査』 結果考察

今回の調査では、防災対策をしているつもりでも、自宅で安心して暮らし続けるためには実際には不十分で、困った経験に繋がるケースがあり、そこには大きく2つの傾向が見られました。

先ず1つ目は、準備や対策の「質」が不十分なケースです。例えば、「断水」に対して「飲料水」は準備していても、「生活用水」が準備できていないと、トイレやお風呂を使うことが難しくなります。また、「地震の揺れ」に対して、「タンスや食器棚用飛び出しの防止・ストッパーの設置」などができていないと、食器やガラスが割れて床に散乱した場合に、大きなケガの可能性が大きくなります。災害時も生活を続ける環境を整えるためには、質として十分な対策内容を備えることが必要と考えます。

2つ目は、準備や対策の「量」が不十分なケースです。例えば、実際の「被災時に困った防災対策」を「飲料水の不足」や「食料品の不足」と回答している人にも、準備しておいたという人が一定数いることから、準備はいているものの、十分な量の備蓄ができていないケースがあることが分かります。準備や対策をする際にも、ご家庭の人数や避難生活の日数も考慮した、量的に十分な備蓄が大切です。

今回の調査では、「在宅避難」を想定する人が多いことが明らかとなり、災害時にも自宅で安心して暮らし続ける対策が求められていることをあらためて確認できました。

当社は、今後も自然災害が起きた後も安心して暮らし続けることができる住まいを目指し、生活者の声に耳を傾けながら、誰もが取り組みやすく、かつ効果的な防災対策のあり方を追求してまいります。